

「マンダム、新機構ジェルクレンジングを開発」

～新規ゲルネットワークの構築に成功～

8月29日「ピフェスタ うる落ち水クレンジングジェリー」発売

株式会社マンダム(本社:大阪市 社長執行役員:西村元延 以下マンダム)は、「水(ウォーターベース)クレンジング」を基本コンセプトとしたクレンジング料の研究開発に取り組んでいます。

今回マンダムは、クレンジングのジェル化において、クレンジング成分の高配合が可能な新規ゲルネットワークの構築に成功しました。これにより、ダブル洗顔を必要としない「水クレンジング」をベースとしながら、ジェル剤型の持つ高い使用性と、今までにはない高いクレンジング力を兼ね備え、さらに高い水分保持機能を付加させた、新機構のジェルクレンジングを開発しました。

マンダムは、今後この新機構のジェルクレンジング技術を応用した商品を上市していきます。

1. 従来のジェルクレンジングの課題

生活者のクレンジングシーンを見ると、濡れ手やお風呂場での使用が多く、またタレ落ちにくい使用性に対するニーズが高いため、それらの機能を有するジェルクレンジングは剤型上の優位性が高いと考えられます。しかし従来の一般品市場におけるジェルクレンジングは、ゲルネットワークの構造上、クレンジング成分を多く配合することが難しかったため、他のクレンジング料と比較してクレンジング力が弱い傾向にありました。そこでマンダムは、クレンジング力の高いジェルクレンジングの研究に取り組みました。

2. 業界初！新機構によるクレンジングのジェル化に成功

マンダムは、クレンジング力を向上させるため、クレンジング成分の高配合が可能な新規ゲルネットワークの構築に取り組み、ある特定の水溶性高分子と無機成分を特定の比率で配合することで、製剤中に安定なゲルネットワークを形成することを見出しました。これにより、業界では初めて、この技術を応用したクレンジング料のジェル化に成功しました。この新技術により、従来の一般品市場におけるジェルクレンジングでは難しかったクレンジング成分の高配合が可能となり、ジェル剤型の持つタレ落ちにくい使用性に加えて、今までにはない高いクレンジング力を兼ね備えた、新機構のジェルクレンジングを実現しました。

3. 高いクレンジング力を実現

このクレンジング力を検証するため、人工皮脂とファンデーションを塗布したモデル樹脂を用いて評価を行いました。その結果、従来のジェルクレンジング(当社品)は、ファンデーションの除去は見られますが、皮脂汚れがやや残存し、完全には落とさきれいでないのになら、新機構のジェルクレンジングは、ファンデーションをきれいに除去したのに加え、皮脂汚れもほぼきれいに除去しており、クレンジング力が大幅に向上していることが示されました(図1)。

4. 洗い流した後も高い潤い持続力

さらに、この新規ゲルネットワークを形成する特定の水溶性高分子の1つであるポリマー成分Aが、高い水分保持機能を有することを見出しました。そのメカニズムは、クレンジング料に含まれるポリマー成分Aが、クレンジング料をすすいだ後、肌上に潤いベールを形成し、水分を引き寄せ抱え込み、さらにこの潤いベールが肌内部からの水分蒸散をブロックします。これにより、従来のジェルクレンジングに比べ、潤い持続力を格段に向上させることが出来ました(図2)。

これを、ヒトの肌を用いた試験で検証したところ、クレンジング料をすすいだ後も、従来のジェルクレンジング(当社品)に比べ、高い潤い持続力を有することが示されました(図3)。

5. 新機構ジェルクレンジング技術を応用した商品を2011年8月29日に発売

マンダムは、この新機構のジェルクレンジング技術を応用し、高いクレンジング力と使用性に加え、高い水分保持機能を有する「ビフェスタ うる落ち水クレンジングジェリー」を、2011年8月29日に発売します。

今後も、「水クレンジング」をテーマにした機能性が高く、使い心地の良いクレンジング製品を提供できるよう、技術開発を進めていきます。

<参考資料>

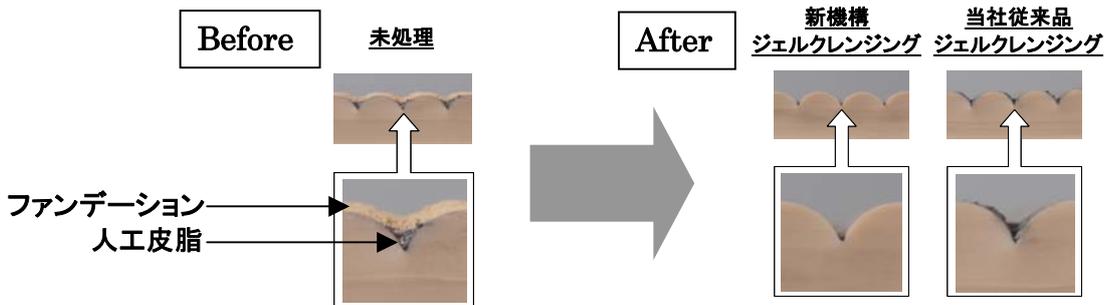


図1 クレンジング力試験

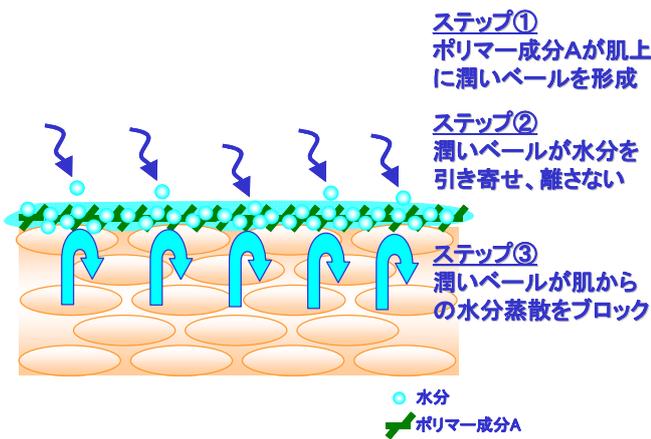


図2 潤い持続メカニズム

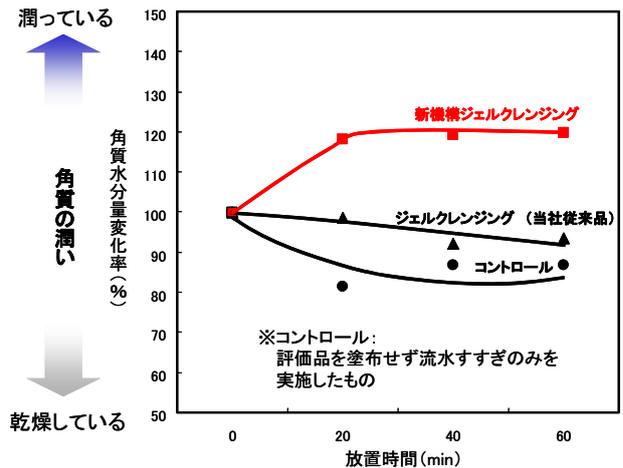


図3 すすぎ後の潤い持続力試験